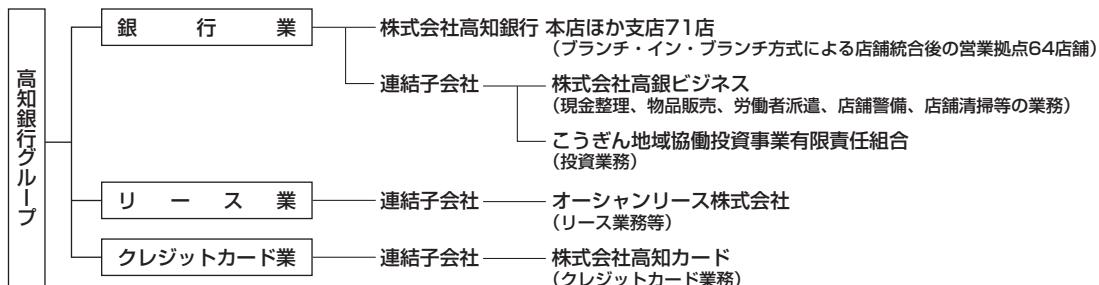


高知銀行グループの概況

●事業系統図 (2022年9月30日現在)

当行グループは、当行、当行の連結子会社4社で構成され、銀行業務を中心に、リース業務、クレジットカード業務などの金融サービスに係る事業を行っております。

当行グループの事業に係る位置づけは次のとおりであります。



●連結子会社の概要 (2022年9月30日現在)

会 社 名	事 業 の 内 容	設立年月日	資本金又は 受入出資金	当 行 出資比率	他子会社 出資比率	住 所
株式会社高銀ビジネス	現金精査整理業務、清掃管理業務	1979年 8月22日	1,000万円	100%	—	高知市本町三丁目3番4号
こうぎん地域協働投資事業有限責任組合	投資業務	2016年 4月 1日	6億円	98.3%	1.7%	高知市はりまや町一丁目5番28号
オーシャンリース株式会社	リース業務	1974年10月 1日	2,000万円	45%	—	高知市知寄町一丁目4番30号 YKSちよりビル3F
株式会社高知カード	クレジットカード業務	1987年 8月18日	2,000万円	5%	37.5%	高知市知寄町一丁目4番30号 YKSちよりビル2F

営業の概況

●経営環境

当中間連結会計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）のわが国の経済は、原材料やエネルギーなどの価格が高騰するなか、輸出は横ばいとなりましたが、ウィズコロナに向けた各種政策効果もあり、個人消費は緩やかに回復しているほか、設備投資や生産は持ち直しの動きがみられ、住宅設備や公共投資は底堅く推移するなど、全体としては緩やかに持ち直しつつあります。

当行の主要営業基盤である高知県の経済は、設備投資や住宅投資は緩やかな持ち直しの動きがみられ、生産は一部に弱めの動きがみられるものの全体では底堅く推移しました。個人消費は持ち直しつつあり、雇用・所得環境も改善傾向にあるなど、全体では緩やかな持ち直しの動きがみられました。

●業績【連結】

経常収益は、償却債権取立益の増加等により、前年同期比2億4百万円増加して113億1百万円となりました。一方、経常費用も、与信関連費用の増加等により、前年同期比3億33百万円増加して99億2百万円となりました。この結果、経常利益は前年同期比1億29百万円減少して13億99百万円となりました。

また、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比5億12百万円減少して8億9百万円となりました。

当中間連結会計期間末における財政状態については、総資産は前連結会計年度末に比べ160億円減少して1兆1,955億円となりました。また、純資産は前連結会計年度末に比べ40億円減少して704億円となりました。

譲渡性預金を含めた預金等は、個人預金は増加しましたが、一般法人預金、公金預金等が減少したことから、前連結会計年度末に比べ121億円減少して1兆90億円となりました。一方、貸出金も製造業、卸売業・小売業、地方公共団体等は増加しましたが、不動産業・物品販賣業、金融業・保険業、建設業、各種サービス業、電気・ガス・熱供給・水道業等が減少したことから、前連結会計年度末に比べ127億円減少して7,391億円となりました。また、有価証券はその他の証券、株式、国債等が減少しましたが、社債が増加したことから、前連結会計年度末に比べ67億円増加して3,105億円となりました。

なお、セグメント情報における経営成績については、銀行業務での経常収益は前年同期比1億23百万円減少して82億73百万円、経常費用は同比15百万円増加して69億57百万円、セグメント利益は同比1億39百万円減少して13億15百万円、セグメント資産は同比281億55百万円減少して1兆1,849億74百万円、セグメント負債は同比207億12百万円減少して1兆1,196億27百万円となりました。

リース業務での経常収益は前年同期比3億2百万円増加して29億20百万円、経常費用は同比3億19百万円増加して28億27百万円、セグメント利益は同比16百万円減少して93百万円、セグメント資産は同比1億69百万円増加して115億33百万円、セグメント負債は同比1億56百万円増加して72億2百万円となりました。

クレジットカード業務での経常収益は前年同期比28百万円増加して1億62百万円、経常費用は同比1百万円増加して1億70百万円、セグメント損失は同比26百万円減少して7百万円の損失、セグメント資産は同比73百万円増加して28億12百万円、セグメント負債は同比67百万円増加して17億21百万円となりました。

最近3中間連結会計期間及び2連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移

(単位：百万円)

	2020年度中間期 (2020年4月 1日から (2020年9月30日まで)	2021年度中間期 (2021年4月 1日から (2021年9月30日まで)	2022年度中間期 (2022年4月 1日から (2022年9月30日まで)	2020年度 (2020年4月 1日から (2021年3月31日まで)	2021年度 (2021年4月 1日から (2022年3月31日まで)
連結経常収益	12,036	11,097	11,301	22,904	22,099
連結経常利益	1,410	1,528	1,399	1,624	2,314
親会社株主に帰属する中間純利益	1,156	1,321	809	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	—	877	1,606
連結中間包括利益	3,248	2,396	△ 3,815	—	—
連結包括利益	—	—	—	6,363	△ 746
連結純資産額	72,793	77,872	70,450	75,732	74,533
連結総資産額	1,234,947	1,223,523	1,195,516	1,244,933	1,211,569
連結ベースの1株当たり純資産額(円)	5,397.70	5,881.35	5,161.76	5,675.68	5,560.26
連結ベースの1株当たり中間純利益金額(円)	106.94	123.11	72.61	—	—
連結ベースの1株当たり当期純利益金額(円)	—	—	—	68.31	140.17
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額(円)	35.62	46.52	26.04	—	—
連結ベースの潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	—	—	—	28.34	55.27
自己資本比率(%)	5.64	6.10	5.62	5.82	5.88
連結自己資本比率(国内基準)(%)	9.90	10.05	9.96	9.72	9.79
営業活動によるキャッシュ・フロー	77,112	△ 16,579	△ 2,629	80,494	△ 34,283
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,559	10,737	△ 9,462	△ 513	2,488
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 266	△ 266	△ 267	△ 442	△ 462
現金及び現金同等物の中間期末残高	160,927	153,951	115,442	—	—
現金及び現金同等物の期末残高	—	—	—	160,060	127,802
従業員数(人) [外、平均臨時従業員数]	820 [292]	788 [302]	775 [301]	802 [295]	770 [304]

(注) 1. 自己資本比率は、(中間)期末純資産の部合計－(中間)期末新株予約権－(中間)期末非支配株主持分を(中間)期末資産の部の合計で除して算出しております。
(注) 2. 連結自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づく平成18年金融庁告示第19号に定められた算式に基づき算出しております。当行は国内基準を採用しております。

連結自己資本比率(国内基準)

(単位：百万円)

2021年9月末

自己資本比率	10.05%
自己資本(コア資本)	67,378
コア資本に係る基礎項目	67,710
コア資本に係る調整項目(△)	332
リスク・アセット等	670,193

2022年9月末

自己資本比率	9.96%
自己資本(コア資本)	67,785
コア資本に係る基礎項目	68,228
コア資本に係る調整項目(△)	443
リスク・アセット等	680,105